

腎臓・リウマチ膠原病内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	腹膜透析カテーテル内腔閉塞に対し腹膜灌流用カテーテルガイドワイヤを使用した腹膜透析患者の後ろ向き研究
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	腎臓・リウマチ膠原病内科
研究責任者	教授 伊藤 恭彦
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	なし
研究の意義・目的	腹膜透析カテーテル閉塞の合併頻度は 6 %程度と報告されています。腹膜透析カテーテル閉塞により腹膜透析に必要な透析液の注入及び排出が困難になり腹膜透析継続が困難となります。透析液バッグの加圧や生理食塩水の急速注入等でカテーテルの閉塞が解除できなければ手術が必要となる場合があります。手術よりも侵襲が少なく透視下で使用が可能な腹膜灌流用カテーテルガイドワイヤを使用して、カテーテル内腔閉塞の解除の有効性、合併症、予後について調査することを目的とします。
対象となる患者さん	2005 年 1 月から 2019 年 12 月までに腹膜透析で通院され腹膜透析カテーテル内腔の閉塞を認められた患者さん
研究の方法	通常の診療中にカルテに記録された診療情報を調査します。詳しい研究計画及び研究の方法に関する資料の閲覧または入手が可能です。ご希望される場合は、下記問い合わせ先にご連絡ください。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2023 年 3 月 31 日
研究に用いる試料・情報	情報：性別・年齢・検査値・1 日尿量・レントゲン画像・透視画像・CT 画像・腹膜透析カテーテル内腔閉塞の診断方法・治療方法等
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。
その他	なし

問い合わせ先	愛知医科大学医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科講座 担当者：教授 伊藤 恭彦 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 23530）
--------	--